



ふるさと笠松の「ちょっといい話」

「笠松中学校のボランティア大活躍」



↑ オレンジティシャツを着て頑張る笠中生

5月12日（日）は五月晴れでした。その素晴らしい空の下で、「第3回笠松町みなと公園Eボート大会」が開催されました。この大会は川を通じた交流やふれあいの場をつくるのがねらいです。町内から50チーム500人以上が参加しました。

この大会の運営に31名の笠松中学校の生徒が、ボランティアとして参加し、積極的に協力してくれました。

生徒たちはオレンジティシャツを着て、ボートの乗り降りの手助けやライフジャケット渡し、ボートの固定などの仕事に取り組んでくれました。おかげで事故もなく無事に大会を終えることができました。生徒たちの積極的な姿からは「大会に参加した人たちのお役に立てたらうれしい。」という気持ちが伝わってきました。感謝！！



←パドルとライフジャケットの山



↑暑い中での応援ご苦労様です。



●心あたたまるいい話：それは★意外な話★ピンチに天使が舞い降りた話●

「恩送り」・・・人から受けた恩を、他の人に順に送っていくという意味

- 久しぶりにバスに乗ったときの話。降りようとしてはっと気づきました。財布の中には1万円札しかない。運転手さんにそのことを話したとき、私の次に並んでいた人が「これ使って」と100円玉を2つ差し出しました。遠慮しましたが、笑顔で「大金じゃないから」と答えが返ってきました。名前も言われなかったのに、いまだに何のお返しもできていません。いつか私も、困っている人がいたら同じように手助けをしたいと思います。
- スーパーのレジに長い列ができていました。「早く前の人の計算が終わればいいのに」と思いながら、順番を待っていました。ふと後ろを振り返ると、20歳ぐらいの青年が10kgの米袋を持って立っています。こちらはたくさんの買い物があつたので、「それ1つだけですか？」と、声を掛けました。「はい」と言う返事があつたので、順番を代わってあげました。青年はレジを済ませたあと、こちらを向いて「どうも、ありがとうございました。」と会釈をしました。レジの人から「代わってあげたお客さんも偉いけど、ずっとお礼の言えた人も偉いですね。私たちも「ありがとう」と言われると、とてもうれしいです。」と言われました。
(参考文献：「感動指定席へ」志賀内 泰弘 ごま書房新社)